

# はっけん ぼくたちのまち 【低学年4 - (4)】

## - 他教科と関連付けた取組み -

(1) 主題名 郷土を愛する心 [4 - (4)] 関連項目 [3 - (3)]

(2) ねらい 郷土を知ることで、郷土を愛する心情を育てる。

(3) 資料名 「はっけん ぼくたちのまち」

(4) 授業の展開例

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 校区の地図を見て話し合う。	学校の周りにはどんなものがあるかな。 ・公園があるよ。 ・お店があるよ。 ・川があるよ。	地図を掲示する。地図には目印となるような建物をいくつか入れておき、発表の手がかりとさせる。
展開	2 資料を読んで話し合う。	町探検をして、どんな発見があったのでしょうか。 ・400年のくすのき。 ・地域の人でお寺を掃除していること。  ・一緒に掃除を手伝ったこと。  「まちのじまん」の発表が楽しみになってきたのはどうしてでしょう。 ・いいいはっけんがあったから。 ・まちのことがわかって、好きになったから。 ・くすのきのことをみんなに教えたいから。 ・地域の人人がみんなでくすのきを守っているから。	それぞれの場面を絵に提示しながら資料を読み聞かせ、状況を把握しやすくなる。  発表に深まりがない場合には、「いろいろな発見があって、僕たちは自分たちのまちについてどんなことを思ったでしょう。」という補助発問を用意しておく。
開拓	3 自分の地域の好きなところを考える。	自分の住んでいる地域で好きなところや好きな行事、いいと思うことを発表しましょう。 ・神社のお祭りが楽しいよ。 ・川で泳げるよ。 ・花がたくさん咲くところがあるよ。	どうして好きなのか、理由を聞き返し、共感することで、発表に意欲を持たせる。
終末	4 教師の説話を聞く。	・地域の人と仲良くするって大切なんだな。	教師自身の郷土に対する思いについて話す。

# せっけん ぼくたちのまち

せこかつかのじかんにまちたんけんにこきもつた。まちのじまんを見つけて、つれのじかんにまつぱよつをするのです。ぼくたちは、三人グループではなしあつて、ほこくえんのひの木のおてらを見に行へりとこしました。

まちたんけんとなると、いつものみかも、なんだかちがつてみえてきました。しばらへあるこじごくと、おてらにつけました。おてらはとてもふるやうで、大きな木がたくさんはえてこました。そこでは、なん人かの人が、にわそびをしてこました。のびた木のえだをきつている人もこました。

「うわあ、でつかあー。」

ぼくとしょくくには、中でも一ぱん大きな木を見上げて、さけびました。

「この木の木は、四百年も生きていこるといわれているんだよ。」

「この木は、みんなのまちを、むかしから見まもつてくれてこるのや。」

一人のおじさんか、タオルであせをふきながらおしゃれてくれました。かぶじくんが、「四百年。大せつな木なんだね。ぼくたちも手つだねつよ。」

といいあした。やつて、ぼくたちも、やべじを手つだひことにしました。木のえだやはつぱを、せつきてあつめました。すると、やぐにあせがでてきました。たいへんでしたが、だんだんたのしくなつてきました。はなしをきくと、やべじをしてこる人は、おてらの人ではなく、きんじょの人たちでした。このやつて、ときどきみんなで、やうじをするのだそうです。

おじさんたちとわかれで、おてらの石だんにすわりました。ずっとこのせつに見えないえのかわらが、たごうのひかりにこらえれて、きらきらひかつてこま。

「今日は、いこはつけんがあつたね。」

けんじくんが、うれしそうにここました。

ぼくは、あしたのせこかつかの「あちのじまん」とこつまつぱよつがたのしみになつてきました。

# 活用に生かすための実践報告

「はっけん ぼくたちのまち」

## 1 主題の設定

郷土に積極的にかかわり、郷土に愛着を持つことは、児童の精神的支えを形成することである。低学年では、通学や遊びなどを通して自分の社会を広げ、家庭と学校を取り巻く郷土にも目が向けられていくようになる。そういう自然な発達段階に即して、素直な気持ちで郷土のよさに気付かせ、親しみを持って日々を生活できるようにしたい。

## 2 指導過程の工夫

生活科で「町探検」をすでにすませていたため、導入では、生活科で作った地図を提示することで、関心を高めることができた。しかし、「町探検」をこの授業の後で計画することも効果的だと考える。その場合、導入では、町の写真を提示するなどの工夫を考えられる。

紙芝居で資料を提示することで、状況把握をスムーズにさせることができる。

自分の町のいいところを考える場面では、児童の実態をふまえ、書かせる活動を省いてもよい。

## 3 発問の工夫

自分の町のいいところを発表させる場合、なぜ好きなのか聞き返すことで、児童の思いを広げることができる。

## 4 児童の反応（授業後の感想）

【町を探検して、どんな発見があったか発表する。】

- ・大きなくすの木
- ・地域の人が掃除をしていたこと。
- ・お寺

- ・くすの木が400年も生きていること。

【「まちのじまん」の発表が楽しみになってきたのはどうしてか考える。】

- ・400年も生きている大きなくすの木を発見したから。
- ・掃除をしている人がお寺の人ではなく地域の人だということを発見したから。
- ・地域の人のやさしさを知ったから。
- ・みんなで協力している町だと知ったから。

【自分の住んでいる地域で、好きなところや好きな行事、いいところを発表する。】

- ・昔、保育園のあった思い出の広場。
- ・湯来温泉のお風呂がいい。
- ・家の近くの滝は、夏に行くと涼しくていいから好き。
- ・湯来町が好き。自然がいっぱいだから。
- ・小学校は、みんな仲がいいから好き。
- ・おじいちゃんが作ってくれたもみじの木のトンネル。
- ・水内川には鮎がいてきれいだから好き。
- ・空気がおいしいから湯来町が好き。
- ・いつもわたしの面倒を見てくれるお家の人が。
- ・わらぞうりを作ってくれる地域の人。
- ・運動会にはお家の人が地域の人がたくさんきてくれるから好き。

## 5 実践者からの一言

町探検の経験を想起して資料を自分たちのことのように考えながら発表することができた。

地域の方との交流の経験から、町の自慢を「地域の方のやさしさ」と答える児童が多くいた。

（湯来西小学校 奥谷 徹）